

米中シットコムにおける「笑い」の構造ーラフ・トラック挿入ポイントにおける共通点と差異の比較

吉松, 孝

<https://hdl.handle.net/2324/4784627>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (芸術工学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	吉松 孝			
論文名	米中シットコムにおける「笑い」の構造 -ラフ・トラック挿入ポイントにおける共通点と差異の比較			
論文調査委員	主査	九州大学	准教授	池田 美奈子
	副査	九州大学	教授	都甲 康至
	副査	九州大学	准教授	齋藤 俊文

論文審査の結果の要旨

本論文は、米中で盛んに制作、放映されているコメディ番組の形式であるシットコムを取り上げて、その「笑い」について、意図的に挿入される笑いであるラフ・トラックに着目してテキスト分析の手法を用いて、米国と中国の笑いのつくり方を比較し、その共通点と相違点を明らかにした。日本においてシットコムが普及していない状況に照らし合わせ、シットコムが普及している2大文化圏の事例を研究することで、日本における将来的なシットコム制作に資する要素を提供することを意図している。また、シットコムにおいて米中の比較研究はなく、またシットコムの個別の発話に関して詳細に分析した研究もない点で、新規性が認められた。

論文構成は、基本的な概念を定義した1章に続き、2章では、既存のユーモア理論のシットコムへの適用可能性が議論され、シットコムの「笑い」の構造を明らかにするためのテキスト分析の枠組みとアプローチを提示した。3章でラフ・トラック挿入箇所の発話における笑いを7つの大分類とその下位分類である36の小分類に整理し、4章から10章までの各章において大分類ごとに、ラフ・トラック挿入箇所のテキスト事例の詳細な分析がなされた。さらに11章で、補足として、視聴者に目を向け、日本人被験者を対象に米中シットコムの視聴実験を行い、視聴者が米中のシットコムの面白さをどのように認識しているのかを明らかにした。12章では、以上の結果を踏まえて米中のシットコムにおける笑いの共通点と相違点を明らかにし、その理由と背景を多面的に考察した。

審査は、主査の池田美奈子准教授、副査である都甲康至教授と齋藤俊文准教授によって行われ、シットコムと文化的背景の関係、日本におけるシットコムの可能性について議論された。またシットコムには、非言語的要素が多く含まれていることから、テキスト分析だけでなく非言語的要素に対するアプローチの必要性についても今後の展開として指摘された。さらに、質疑応答のなかで本研究において既存のユーモア理論に当てはまらない分類が示唆されたことを受け、議論のなかでシットコム独自のユーモア構造を解明する可能性が見出された。以上の審査に基づき、シットコムについて新たな知見を創出し、日本におけるシットコム普及に資する方法論を提示した意義が評価されるとともに、芸術工学分野における十分な学術的知識が認められた。よって、本論文は博士（芸術工学）の学位に値するとされた。